

1/15

土砂災害防止に関する 作文で表彰

阿部心奏さん（当時市立美和小学校6年）が平成29年度土砂災害防止に関する作文で、285点の作品から、最優秀賞にあたる茨城県知事賞を受賞しました。さらに、国土交通省の中央審査に推薦され、全国4,348点の中から優秀賞にあたる国土交通事務次官賞を受賞しました。

阿部さんは、毎年、夏休みの課題の中から土砂災害防止を選び土砂災害について調べたり、自分なりの考えを表現したりして、今回、今までの知識や考えを「土砂災害への心構え」という題で作文にまとめました。



▲担任の眞崎紀雄先生と阿部心奏さん

3/16

公衆衛生事業功労者表彰

多年にわたり、乳幼児健診や予防接種を行い、地域住民の健康管理や感染症対策に尽力され、また、休日当番医等を担うことで地域医療にも貢献している功績が認められ、厚生労働大臣から丹治正男先生に表彰状が贈られました。



▲おめでとうございます

3/20

県教育長から感謝状授与

大宮小学校

人権教育研究指定校として人権が尊重される授業づくりについて県内に成果を発信しました。

大宮中学校

国語の授業力ブラッシュアップ研修の協力校として県内教職員のレベルアップに貢献しました。



3/20

市教育長賞授与

御前山中学校2年生の5人が、いばらきっ子郷土検定県大会（主催：県教育委員会）に市代表校として出場し、第3位入賞を果たしたことに対して、市教育長より教育長賞が授与されました。



▲大活躍した御前山中の皆さん

3/5

オリンピック・パラリンピアンと交流しました

ホストタウン交流計画の一環として、子どもたちがオリンピック等との交流を通じ、スポーツに対する関心や共生社会等の意識を高めることを目的に、長野冬季五輪スピードスケート500m女子銅メダリストの岡崎朋美さんとロンドン・リオ夏季パラリンピック柔道女子入賞の半谷静香さんが村田小学校を訪れ、全校児童や保護者らと交流をしました。岡崎さんは、長野五輪の映像やスケートにまつわるエピソードを紹介、スケートの基本動作を披露し、「自分のやりたいことに挑戦し続け、諦めないことが大事」と語りました。



▲笑顔で話す岡崎朋美さん



▲児童と柔道をする半谷静香さん



※当事業は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の公認プログラムです。

3/17

まちづくりネットワーク大会

市内で様々な活動を行っている団体や個人を緩やかにつなぐ、市まちづくりネットワーク大会が開催されました。今回は「腹を割る会。」と題して、まちづくりに携わっている方々で「まちうちを盛り上げる」や「伝統文化で地域おこし」などのテーマに分かれ、グループワークで日頃の活動の悩みやまちづくりについて熱く語り合いました。当日は市内外から多くの参加者が集まり、盛り上がった大会となりました。

まちづくりネットワークの活動に興味がある・参加したいという方はお気軽にお問い合わせください。

問い合わせ

常陸大宮市まちづくりネットワーク
代表 倉田稔之（54-8118）
事務局 市民協働課市民協働G



▲有意義な意見交換となりました

3/10

第6回お宝発見事業

「常陸大宮市のお宝発見事業」の第6回を実施しました。最終回となる今回は、25人が参加しました。午前は、美和地域の小田野城跡と周辺の文化財について学びました。まず初めに、吉田八幡神社に行き、高野守宮司から神社の歴史についてお話を聞きました。その後は三浦杉を見学。参加者は、その大きさに圧倒された様子でした。

次に、小田野城跡に向かいしました。市教育委員会文化スポーツ課の中林香澄主幹から説明を受けながら、急な斜面やぬかるんだ地面にも負けず全員が城跡に登り、当時の状況に思いを馳せました。その後、そのまま歩いて三浦神社に行き「空智上人坐像」と「不動明王立像」を見学。3か所をめぐり美和地域の歴史を学びました。

午後は、これまでの見学や体験で学んだことや感じたことを、互いに意見を出し合いながらまとめ、その内容を班ごとにみんなの前で堂々と発表しました。

その後は、これまでの事業の様子を撮影した写真のスライドを鑑賞したり、この事業をずっとサポートしてくれた「茨城大学子どもふれあい隊」の学生から参加者への言葉をもらったりしました。そして、最後に修了証を受け取り、1年間の活動を終わりました。

参加した子どもたちは、全6回の体験を通して多くの常陸大宮市の宝を発見するとともに、この事業に協力してくれた沢山の人がいることを知り、自分たちのふるさとへの誇りと愛着を深めることができました。

ボランティアの声



茨城大学
子どもふれあい隊
山本 愛生

ついに最後となりました。出会った頃はおとなしかった子どもたちも、今となってはみんな仲良しです。神社では大学生が子どもたちに参拝の仕方を教えて、一緒にお祈りしている様子が印象的でした。まとめの作業は各班でアイディアを出し合い、短い時間で頑張って完成させていました。



3/18 第6回文書館カレッジを開催

第6回文書館カレッジを、常陸大宮市史編さん委員会古代・中世史部会の前川辰徳さんを講師に迎えて開催しました。

「シリーズ常陸大宮と佐竹氏その5」となる今回は、「戦国期における佐竹氏と那須氏―「戦国大名」への一階梯」と題して、隣国下野国を支配した那須氏と佐竹氏とのかかわりについて講演されました。戦国時代、対立と連携を繰り返した両者の動きがわかる当時の史料からは、常陸大宮市域の人々が那須氏との紛争に動員されたことなどがわかり、来場者も熱心に耳を傾けていました。第7回は6月を予定しています。

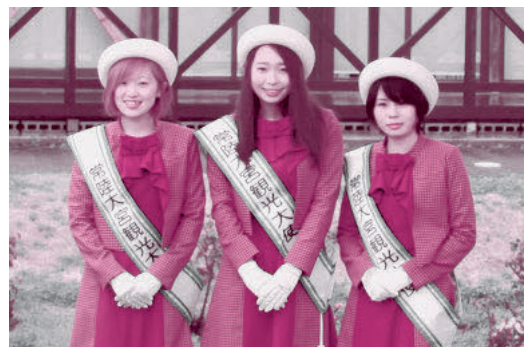


▲分かりやすい講演をいただきました

4/1 新しい観光大使

本市の魅力や観光・イベント情報などを全国に発信する観光大使に、寺田梨乃さん（日立市）、長岡あさひさん（常陸大宮市）、沼尻茉奈さん（常陸大宮市）の3人が選ばれました。

3人は「自然豊かで景観の良い常陸大宮市の魅力をたくさんの人たちにPRできるよう頑張ります!」と意気込みを語りました。第9回辰ノ口さくら祭りへの参加を皮切りに今後様々なイベント等に参加する予定です。



▲左から寺田さん、沼尻さん、長岡さん

3/24

ふるさと再発見ハイキングで早春の明山へ

風もなく、雲間に青空がのぞく中、ふるさと再発見ハイキング～上山・竜神峡編～（主催：市スポーツ推進委員会）が48人の参加のもと行われました。竜神峡から諸沢の上山へと一気に上る山道は、個人で行くには少々難しい人気のコース。

スタート地点となる竜神ダムでバスを降り、準備運動の後、衰々とそびえる岩壁を見上げながら、舗装されたハイキングコースを亀ヶ淵まで。スポーツ推進委員が、竜神川を横断するための足場を作っている間、参加者は市史編さんで地質を担当する菊池

芳文氏よりこのゴツゴツした岩山が、1500万年前の海底火山の噴出物が冷え固まったものと説明を受けて驚いていました。

亀ヶ淵から諸沢へは、大昔の海底を、岩や草木を手掛かり足掛かりとしての急な登り。息を切らしてたどり着いた最高点、明山からの眺めは360度です。

快晴なら、日光・那須の山々はもちろん、遠く富士山も望めますが、今回は、足下に広がる芽吹き間近の淡紫色の木々に、春を感じたハイキングでした。



▲集合写真



▲明山頂上からの眺め